2015.12.25　12月例会用資料

ASK歩く会
野川歩き(2)　報告

世話人(金作・原田・大出・稲田)

開催日　　2015年10月23日(金)　晴れ

出発　　小田急線　新百合ヶ丘駅

　　午前　8時40分

解散　　午後　7時（永山で懇親会も実施）

参加者　　23名

コース

新百合ヶ丘駅 ⇒ 登戸駅 ⇒ 立川駅 ⇒ 国分寺駅

⇒日立中央研究所内(源流①)⇒ グリージョ(昼食)⇒

姿見の池(源流②) ⇒西国分寺駅⇒武蔵国分寺公園

⇒真姿の池湧水群(源流③) ⇒お鷹の道⇒ 一里塚橋

⇒前原遺跡 天神橋⇒ 小金井神社⇒ はけの道⇒

⇒ 都立武蔵野公園⇒（バス）⇒調布駅⇒永山駅⇒

新百合ヶ丘駅

日立中央研究所内・野川の源流①

野川の源流　湧水の1つ

日立中央研究所では、春と秋に庭園公開を行っており、一般の人が武蔵野の面影を残す庭園を自由に散策できる。今秋は、11月15日(日)。

庭園には約27,000本の樹木があり、春には桜などの開花、秋は紅葉、黄葉が楽しめる。 所内には、16か所の湧水があるとの事。

宮内庁ご用達・・・

グリージョ(昼食)

美味しい料理が盛り沢山　これで1,200円！

姿見の池(野川の源流②)

姿見の池(源流②)

姿見の池の名の由来は鎌倉時代、この池のある恋ヶ窪がこの付近を通っていた鎌倉街道の宿場町であった頃、遊女たちが自らの姿を映していたという言い伝えによる。

画面手前の湿地の下には、古代官道(東山道武蔵路)の遺構が埋まっている。

国指定史跡　東山道武蔵路跡（恋ヶ窪地区）

The remain of Tosando-Musashi-michi road

東山道武蔵路跡は武蔵国分寺の立地や構造、変遷を理解するうえでも重要な遺跡として、平成22年8月に史跡武蔵国分寺跡に附帯して追加指定されました。

駅制と五畿七道の整備

大和を中心とする古代日本の律令国家は、7世紀後半から8世紀前半にかけて、国の支配体制を全国に及ぼすために、都のある五畿（畿内5ヵ国）と、諸国の国府を結ぶ放射線状に伸びる七道（東海道、東山道、山陽道、山陰道、北陸道、南海道、西海道）を整備しました。七道は古代官道のあるであると同時に、諸国はいくつかの道に属するため、地方の行政区画ともなっています。

七道には原則として30里（16 km）ごとに駅家が設けられ、緊急の官用通信のために駅馬が飼育されました。また、各駅には国司の補助要員として駅路を行う駅長が任命されました。このような古代における公使・官人による中央と地方との交通・情報伝達の制度を駅制と呼び、このことから七道は駅路とも言います。駅路は目的地を最短距離で結ぶために、必要に応じて山を切り通したり、湿地を埋め立てるなど、可能な限り直線的に設定されています。

東山道武蔵路（近景）
西国分寺地区（泉町二丁目）

『延喜式』（平安時代）をもとに復元した駅路
総延長は実に6,300 kmにも及び、駅路の整備はまさに国家の威信をかけた壮大なプロジェクトでした。

恋ヶ窪谷の形成と水循環の再生

今からおよそ10万年から7万年以前、多摩川はしばしば流路を変えて、土地を削り、谷や崖を造りました。ここ恋ヶ窪も多摩川が造った谷の一つです。恋ヶ窪では湧水が池や湿地を造り、原始から人びとが住み着いていました。やがて湿地は開墾され水田となりましたが、近代になり都市化の波が押し寄せると、畑や水田は宅地となり道路は舗装され雨水は浸透しにくくなり、湧水が減少してしまいました。

国分寺市では、湧水の源である地下水を保全するために、宅地に雨水浸透ますの設置を促進しています。ここ姿見の池はこうした水循環を保護した成果の一つとして、埋め立てられてしまった湧水地を自然と共存する場として再生しました。

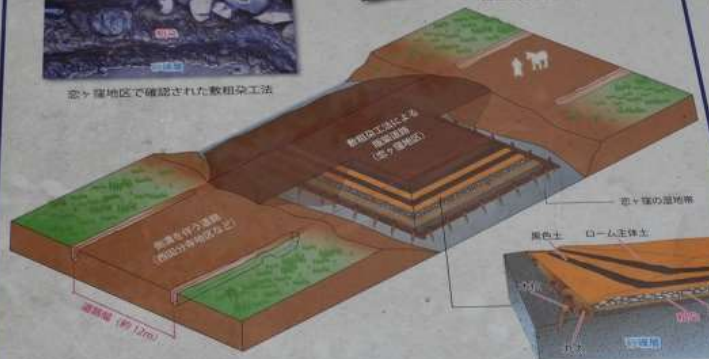
地下水と湧水のしくみ

恋ヶ窪谷の東山道武蔵路

平成8年度に、この場所で東山道武蔵路の発掘調査が行われました。他の調査区（西国分寺地区など）では側溝を伴った幅約13m、路面が踏み固められた道路が出土していましたが、ここの道路は、丸太で枠をつくり木杭でおさえ、粗朶（アシや木の枝）を敷き、10～20 cmの礫を敷き詰め、さらにローム主体土と黒色土を交互に積み重ねる「敷粗朶工法」と呼ばれる湿地道路の構造でした。これは、湧水が多い谷の湿地に対応するためと考えられ、直線道路を構築するための古代の土木技術を知る貴重な資料であるとともに、当時の恋ヶ窪谷の自然をうかがい知ることができます。

恋ヶ窪地区で確認された敷粗朶工法

出土した木杭　長さ約94 cm



恋ヶ窪地区の東山道武蔵路模式図

敷粗朶工法の断面模式図

東山道武蔵路の推定ライン

東山道武蔵路

武蔵国は七道のうち東山道に配属されましたが、上野国と下野国を通る東山道の本道からは南へ大きく外れた位置にあるため、上野国から武蔵国内に南下する支路が存在したことが、弘仁9年（818年）の『日本紀略』に記されています。この道を現在では東山道武蔵路と称しています。

しかし、東山道武蔵路を往復することは交通上不便であるという理由で武蔵国は宝亀2年（771）に東海道へ所属替えとなります。これにより、駅路としての東山道武蔵路は使命を終えることになりますが、発掘調査の成果から、その後も武蔵国内の南北交通路として平安時代の終わり頃まで使用されていたことがわかっています。

東山道武蔵路周辺の古代道路網

東山道武蔵路と武蔵国分寺・国府

東山道
西国分寺地区
国分寺市泉町二丁目地区）の調査（平
を持つ幅12m
たって発見さ
考古学のみな
研究者から

東京武蔵国分寺ロータリークラブ　寄贈　創立20周年記念　2012年3月

監修　国分寺市教育委員会（ふるさと文化財課）　℡042-300-0073
編集　武蔵国分寺跡資料館　国分寺市西元町1-13-10　℡042-323-4103

国分寺市 Kokubunji City

武蔵国分寺公園

1987年、国鉄が分割民営化される際に、国鉄の債務を返済する目的で閉鎖された中央鉄道学園の跡地を住宅と公園として整備して2002年4月1日に開園した。

途中で迷子になった3人を、無事救出。

真姿の池　湧水群(野川の源流③)

真姿の池

国分寺市西元町の国分寺崖線にて形成されている。武蔵台地の代表的な景観の場所であり名水百選に選定されている。

お鷹の道

お鷹の道

江戸時代にこの辺りは尾張徳川家のお鷹場（鷹を使って狩りをする場所）に指定されていた事に由来するらしい。

一里塚橋

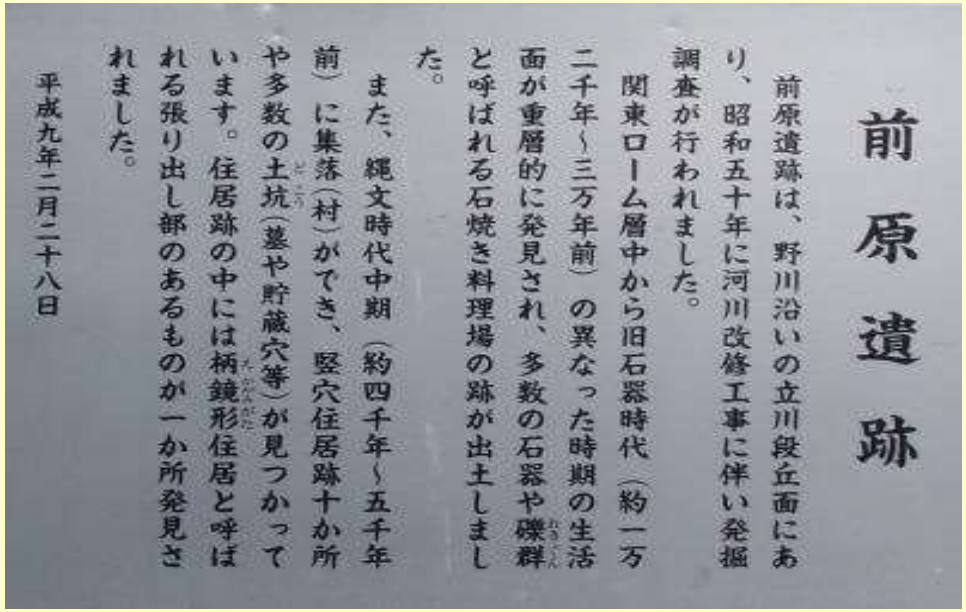
東元町の一里塚のところ。ここから上流は、二つに分かれ、一つはJR中央線を越えて日立中央研究所の中の池へ。それが、本流。そしてもう一つの支流は、真姿の池 湧水群へ。

肉の丸愛　里芋コロッケをゲット

一里塚のすぐそばにある肉屋さん。地元名物の美味しい里芋コロッケを堪能。

大事な資料を置き忘れ、大慌てで取りに帰る。

前原遺跡　天神橋



前原遺跡

前原遺跡は、野川沿いの立川段丘面にあり、昭和五十年に河川改修工事に伴い発掘調査が行われました。

関東ローム層中から旧石器時代（約一万二千年～三万年前）の異なった時期の生活面が重層的に発見され、多数の石器や礫群と呼ばれる石焼き料理場の跡が出土しました。

また、縄文時代中期（約四千年～五千年前）に集落（村）ができ、竪穴住居跡十か所や多数の土坑（墓や貯蔵穴等）が見つかっています。住居跡の中には柄鏡形住居と呼ばれる張り出し部のあるものが一か所発見されました。

平成九年二月二十八日

はけの道

ムジナ坂

国分寺崖線（ハケ）

野川の左岸に続いている崖は、武蔵野段丘の南端に当り、国分寺崖線といいます。高さは10~20mあり、野川にそって20kmも続いています。

この崖線の下部は、武蔵野レキ層が露出し、段丘の上部にしみこんだ雨水が、そこからわきだしてきます。

このあたりでは、この崖線を「ハケ」と呼び、なかでも野川公園に接する一帯は、今なお豊かな緑が残されています。

公園付近の断面模式図

「はけ」とは

都立武蔵野公園

野川に沿って残る草原や雑木林を配した、野趣に富んだ公園。東京都の各公園や街路に植える苗木を育てる苗圃をもち、散歩しながら木々の育成の様子を観察することができます。

ご静聴有難うございました

ご参加の皆さん　お疲れ様でした